

令和2年第10回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和2年10月22日(木) 14時00分
- 2 閉会日時 同日 14時57分
- 3 開催場所 加西市役所 1F多目的ホール
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	本 玉 義 人
次長兼教育総務課長	今 西 利 夫
教育委員会次長(文化財担当)	森 幸 三
教育委員会課長(施設担当)	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	伊 藤 勝
生涯学習課長	松 本 富 美
総合教育センター所長	常 峰 修 一
図書館長	藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

6 付議事項

議案第38号 加西市文化財審議委員の委嘱について

議案第39号 加西市立学校の修学旅行等中止又は延期に係る経費の補助に関する要綱の制定について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 38 号 加西市文化財審議委員の委嘱について

教育委員会次長（文化財担当）より説明する。文化財保護に関する条例第 18 条の規定により、次の者に文化財審議委員を委嘱したく、委員会の議決を求める。任期については、令和 2 年 10 月 1 日から令和 4 年 9 月 30 日までの 2 年間となる。委嘱する者については、別表に上げているとおり。条例により委員は 8 名以内、それぞれ専門分野の先生方を選出しているが、前回に引き続き全員再任として提案させていただいている。

教育委員からの質問および教育委員会次長（文化財担当）の回答

- ・文化財審議委員とは主にどんなことをするのか。文化財の指定を決めるための委員であるのか。

(回答) 文化財の保護に関する条例の中で、文化財審議委員が規定されている。審議内容は、委員お見込のとおり、文化財を指定するかどうかということ、逆に、指定解除をするかどうかということが案件となる。また、文化財の修理要望が上がった場合、その修理が妥当かどうかなど、指定文化財に関する案件について教育委員会から諮問を上げ、文化財審議委員会から答申をいただくことになっている。

議案第 39 号 加西市立学校の修学旅行等中止又は延期に係る経費の補助に関する要綱の制定について

学校教育課長より説明する。加西市立学校の修学旅行等中止又は延期に係る経費の補助に関する要綱を次のように制定いたしたく、委員会の議決を求める。本要綱は、新型コロナウイルス感染症等が原因で、修学旅行をはじめとする宿泊を伴う校外活動等が中止又は延期になった際に発生する経費、いわゆるキャンセル料等を補助するためのものである。

対象となる経費は、旅行業者等と契約した受注型企画旅行を解約又は変更した際に、発生する取消料及び変更補償金、その他市長が必要と認める経費である。キャンセル料は、キャンセルする日程によって若干割合が変わってくるが、保護者負担となる経費を全額補助しようとするものである。

教育委員からの質問および学校教育課長の回答

- ・キャンセル料に係る市の補助金のことで参考までにお尋ねしたい。要綱第5条で「予算の範囲を超える場合にあっては、予算の範囲内の額とする」と書いてある。例えば全校が集中してキャンセルとなってしまった場合、4回、5回とキャンセルになるとは思わないが、予算としてはどのぐらいまで補助できると考えているのか。

(回答) 現在、キャンセルの事案が出ていないので、予算はまだ持っていない。キャンセル料が発生した場合に、補正予算を上げて、その相当額を議会で議決をいただくことになると考えている。来週から小学校が修学旅行へ行く予定である。例えば、旅行開始後、出発後にキャンセルとなる場合は、キャンセル料が全額かかるので、その経費が小学校ではおよそ900万円になると報告をうけている。また、当日キャンセルであれば、50%のキャンセル料で、450万円ほどになる。そういった経費をキャンセル料が発生した後に、補正予算で上げていくことにしているので、キャンセル料は全額補助したいと考えている。
- ・「予算の範囲」とあるが、今のところ予算がこれだけと決まっているわけではなく、随時対応されるということであるのか。例えば、最悪の場合、2回目の延期でキャンセル料がまた発生することになっても、割とゆとりある対応をしていただくと理解してよいのか。

(回答) 旅行業者とのやりとりで、延期の条件にもよるが、例えば10月末の小学校の修学旅行が延期になっても、1月、2月に同じ行程で同じ宿舎に泊まるということであれば、キャンセル料、延期料等は一切かからないという契約をしていただいている。その後は卒業の予定もあり、2回目の延期をして修学旅行を行うということは現実的に難しいと思われる。そうなった場合、旅行業者が、何%のキャンセル料が必要かというのをやりとりの中で言われると思うので、その分を市で補助したいと考えている。
- ・教育委員からの要望：キャンセル料については、できるだけ最後まで対処していただけるよう、よろしくお願ひしたい。
- ・教育委員からの要望：繰り返しになるかもしれないが、コロナ禍に関しては、子どもたちには何の責任もないことである。今年小学校6年生や中学校3年生は、去年の段階から卒業生を送る会ができなかったであるとか、本当にいろいろなところで苦勞をかけているので、修学旅行だけは何とか成功させてあげたいという思いがある。キャンセル料については、今も事後補正とお聞きしたが、もし行けなかったとしても、その経費の100%補助を認めていただけるよう要望したい。
- ・要綱第4条に(1)「第2条第4号のキャンセル料相当額」(2)「その他市長が必要

と認める経費」とあるが、例えばどういうものを想定されているのか。もしわかれば教えていただきたい。

(回答) 今回、キャンセル料の補助に関する要綱を立てる際、事務局で想定したのは旅行代金、つまり宿泊料や交通機関等の経費であるが、当日あるいは前日にほかにもキャンセル料の中に想定していなかった経費が出てくることも考えられるため、その想定されていない部分の経費も、市長との協議によって認めていただこうということで置いた条項である。そのため、今は具体的な内容は想定できていない。

・「新型コロナウイルス感染症等が原因で」とある。今回はコロナでのことだが、それ以外に中止となり得る原因にはどういうことがあるのか。

(回答) 「新型コロナウイルス感染症等」と書かせていただいたのは、今はコロナだが、今後も他の感染症あるいは未知の感染症が出ることも考えられるからである。今後、宿泊を伴う校外活動、例えば小学校5年生の自然学校や中学1年生入学後すぐの野外活動、それから特別支援学校の交流体験チャレンジ授業といった宿泊授業でキャンセル料が出た場合も対応できたらと考え、それも想定した内容になっている。コロナでなくても、そういったところも補填したいと考えている。

・主に疫病をとということか。

(回答) 子どもたちあるいは保護者の自己都合ではなく、教育委員会あるいは今では全国的なことだが、そういった子どもたちの責任のないところで、中止または延期せざるを得ない場合と考えており、必ずしも疫病だけではないことも想定できる。非常変災を含め、考えていただけたらと思う。

9 議決事項

議案第 38 号 加西市文化財審議委員の委嘱について

原案通り可決

議案第 39 号 加西市立学校の修学旅行等中止又は延期に係る経費の補助に関する要綱の制定について

原案通り可決

10 報告事項

教育長

前回9月23日の定例教育委員会以降の業務について報告する。

9月25日、市議会本会議の最終日に出席した。なかなか白熱の議論で、皆さん非常に熱心に議会運営活動をされていることが強く印象に残った。

9月26日は、市民会館コミュニティセンター竣工式があった。本来であればもっとたくさんの方々に出席いただくところであるが、コロナ禍により、最低限の人数でリニューアルオープン記念式典と内覧会が行われた。耐震改修はもとより、例えば授乳室やオストメイトトイレ、調理室も大変きれいにリニューアルされた。全館無線LANも使用可能で、大変機能が向上したと思う。皆様方も市民の方々にお伝えいただき、ぜひ新しい市民会館をご活用いただきたい。

9月29日には、新聞等でご存じかとは思いますが、北条小学校5年生の自然学校の気球体験を見学させていただいた。なかなかおもしろい企画を校長先生がされた。加西市が自前で持っている気球に5年生全員が乗せてもらった。ヘリウムや酸素などを含めて、空気の勉強を気球に乗って体感できたことが一番楽しかったと思う。大変活気のある自然学習であった。

9月30日には、定例校長会に、午後は図書館協議会に出席した。

10月7日には、来年度の予算にかかわる人口増政策課・財政課との事業実施計画ヒアリングに出席した。これは大変大事なことであるが、なかなか頭の痛い問題であり、教育委員会としてはきちんとした見識を持ちながらやっていきたいと考えている。

10月11日、外国人のためのタウンミーティング「グローバルミーティング」に出席した。これは、市長部局の開催ではあるが、民間からの発案で今年初めて外国籍の住民の皆様に対して行われたものである。私にとってもグローバルというのは、常にキーワードとして注力しているテーマであるので、加西市に住んでいる外国の方々、また、外国人のお父さん、お母さんがどういうことを考え、どんなことに不自由を感じていらっしゃるのかをきちんとリアルにお聞きしなくてはいけないと思って出席させていただいた。1番には言語の問題、あとは教育の問題が、とても大きな不安、問題として浮かび上がっていた。私も海外経験が結構あるので、言語というものは、わかったと思っていても、ニュアンスまで全部わかるというのは、何十年住んでいても母国語でない限り難しいものであると考える。また、特に、教育に関することや医療については問題で、自分の状態をどのようにしたらお医者さんに伝えることができるのか。真夜中にどこかが痛くなったらどうしたらいいのか。そういった非常に切実な問題が出ていた。

私を含め、加西市ではこれはきちんと考えていくべき問題だと思う。例えば、グローバルミーティングのときのネームプレートについても、「西村市長」とか、「民輪教育長」というように漢字で書いて置いてあった。これは皆さんにとっては当然なことであるが、出席しているのが外国人の方だと、「誰が読めるのだろうか？」ということ

ある。片言で日本語を話す外国人の方でも、なかなか漢字で名前を読むのは難しいことである。だから、そういうところからやり始めていかなければならないのだと痛感した。それは、担当者を責めるということではなく、みんながそういうところからグローバルの意識をきちんと心がけていかななくてはいけないのだと大変強く感じた。

10月13日には、子ども子育て会議に出席させていただいた。子育て中の女性委員さんたちも出席していらっしやっていて、すばらしいと感じた。中には大変問題意識のある若いお母さん方もいらっしやった。「加西に住んでいらっしやる女性は皆さん奥ゆかしくて、ご自分の意見があってもなかなか言われぬのよ」と時々耳にすることがあるが、子育て会議の場にいらした若いお母さん方は、きちんとご自分の意見を持った上で、大変活発に発言されていた。こういう意見をぜひ謙虚に承って、解決していかななくてはいけないと強く感じた。

10月15日には、市の特別顧問竹本氏による「SDGs ってなんだろう？」と題した特別講演が行われた。今ご覧いただくとわかるように、教育委員会の部課長はみんながこのSDGsのバッチをつけており、そういう意識をきちんと持って、日々業務に励んでいるということを意思表示している。SDGsというのは、例えばプラごみを減らすことやショッピングに自分のエコバックを持って行くなど、本当はみんながもうやっていることだが、なかなかそれがSDGsだと意識しないで行っていることも多々ある。日本は先進国の中では余り進んでいない。竹本氏はつい最近まで国連大学サステイナビリティ高等研究所の所長でもあった方なので、「ちゃんと日本はやっております」と言っておられたが、実はデータから言うと、先進国の中では日本はSDGsが進んでいない後発国であり、みんなできちんとやらなくてはいけない。また、教育でもそれぞれの学校でSDGsに取り組んでいる女子校もある。川の河口や海でプラスチックごみの回収をしたところ、それらのごみが流れてきた源は上流地域からだったということもある。山の方でみんなが無意識に捨てているものが、全部海に行っているのを知り、ただ単に海沿いの問題だけではないとも言われている。私自身も前職でそうした問題にかなり力を入れていた。また、あと二十年、三十年後、皆さんのお孫さんの時代になると、このままいけば海の大型の魚のおなかの中は全部プラスチックごみがたまってしまい、もう魚は食べられなくなるとも言われている。そういう意識はまだほとんどないが、魚大国の日本にとっても実は大変な時代を迎えている。そういった意味でも竹本氏の特別講演は大変有意義なものであった。

その後、教育委員会次長の案内で、玉丘古墳に埋まっていた根日女の石棺などを見て、竹本氏も感動しておられた。私も加西出身であるが、恥ずかしながら初めて石棺を目の当たりにし、これはすばらしいものが加西市にはあるのだと思った。きちんと誇りを持ってこうしたものを市内外へ発信していかなければと感じた。これは教育委員会の所管であるので、もっとそういうことにも力を入れていきたいと反省した。

さらに、鶴野飛行場で紫電改を見、巨大防空壕シアターで映画を見せていただいた。

外から来る方にとっては「加西市って何かすごいね」と感じられる雰囲気伝わってきて、私自身、少し前まで外にいた側だったが、今は加西の中にいる者として、とても誇らしく感じ嬉しかった。鶉野については、本年の末までに29校の修学旅行生が訪れることになっている。私が教育委員会でも常に言っていることだが、なぜ修学旅行で来るのかと言えば、やはり平和教育で来ているので、そここのところの見識はきちんと持っておくべきである。今まで人が来なかったところが、ただ単なる観光地になって、昨日は千何百人も入りましたという問題ではなくて、平和教育の目的で修学旅行生たちが来てくれているというところだけは外してはいけないと強く思った。

また、10月19日、20日には、小中学校16校の校長先生と教職員人事評価育成システムに関する目標達成状況確認の面談があった。そうしたスタイルと時間で人事評価が果たしてきちんとできるのか、と自分なりに疑問を持っていたが、普段から課長、部長を初めとした教育委員会のみんなが、学校とかなり強いコミュニケーションをとってくれているので、それが可能なのだと理解した。年頭に立てられた目標がどれくらい達成できているかというようなことを、校長先生1人1人とお話をさせていただいた。ある方はクールに、ある方は熱く語られていた。それぞれの学校における達成状況については、校長先生によって自己評価もさまざま、人間観察を含めて興味深く有意義だった。やはり人を評価するのは大変なことだと思うが、きちんとさせていただいたつもりである。

大体、皆さんから「コロナ禍で本当に大変だった」という言葉がまず出たが、しかしながらその中には、大変ありがたいなと思った意見として、「このコロナ禍だからこそ、教職員が1つにまとまれた。そうしないと乗り越えられない状況であった。そういう意味では、自分たちの成長にもつながったので、それは今後も生かしていきたい。今までに戻るのではなくて、一旦そうした状況で乗りきったところから出発したい。」と言われた校長先生が何人かおられた。これは大変心強く思った。

こども未来課長

加西市立北条東こども園の民営化移管先事業者の決定について報告する。

今年7月、北条東こども園の民営化について、移管先事業者を公募した。それにあわせて事業者の選考委員会も開催してきたところである。同委員会から市長に対し、社会福祉法人無量会を移管先事業者として選考する旨の答申が出された。その答申を受け、加西市は10月1日に社会福祉法人無量会を北条東こども園の移管先事業者として決定している。なお、当事業者は市内で善防こども園を運営している事業者である。

このたびの選考については、応募事業者は1件のみであった。1社についても点数評価をするということで、9月7日の最終選考会で採点を行った。もともと募集要項では130点満点のうち基準点を78点としていたが、5人の委員全員が基準点以上の点数をつけていたため、無量会の選考が決定した。

今後の予定としては、11月13日（金）に事業者と保護者、地域の方も含めて説明会を開催する予定である。前回の説明会において、まだ園に入っていない方あるいは地域の方も参加できるよう周知してほしいという要望もあったので、11月広報に説明会の通知を掲載した上で開催したいと考えている。あわせて、当日の流れについては、無量会と市で意見が違ふと困るので、11月6日に事前の打ち合わせをして説明会に臨む予定である。

それ以降は、保護者、事業者と市の3者で協議会を設立し、一般の保護者の方も傍聴ができるように3者協議会を進めながら、機会を設けて保護者説明会も同時に開催していくように進めていきたいと考える。加西市において初めてのこども園の民営化であるので、事業者、市、保護者の方々もいろいろと不安もあるので、そのあたりはしっかりと保護者の方々のお話を伺いながら進めていきたい。

そして、来年4月からは、事業者に協力をいただいて、北条東こども園の保育に参加していただくこととしている。このように1年をかけて引き継ぎをして、令和4年4月に完全に移行する流れで進めていくように考えている。

教育委員からの質問およびこども未来課長からの回答

- ・まだ、打合せをしたりと、設立に関しての準備段階であるので、お聞きするのはどうかとは思いますが、現在、在職中の非正規職員もしくは臨時職員の今後の処遇については話が入ってきているのか。

(回答) その点については、これから職員と話し合いを進めていきたいと考えている。基本的な考え方では、北条東こども園の職員だけでは公平ではないので、全てのこども園の職員に対し、新しい民間の園へ行くことを希望するかどうかという希望調査を行いたいと思っている。個々に希望を聞いた上で、籍を変わっていただくという流れをとりたい。まだ、現時点では事業者から雇用条件は出ておらず、それが出されたときに職員へ照会をしていきたい。

- ・教育委員の意見：まだ準備段階で固定的なことは出ていないと思うが、できるだけ労働条件等は市でも補助していただきたいと思います。今後よろしく願いしたい。

- ・私はそのとき委員ではなかったのですが、どのような状況であったのかわからないが、後から聞くと、泉よつばこども園のときにはいろいろ反対をする方がいて大変だったと聞いた。今回も反対をする方がいないとは限らないので、そういう大変な状況になった場合、どのように対応されていくつもりなのか。

(回答) 反対する方には反対される理由があると思うので、そのあたりをしっかりと

お聞きしながら、改善できるところは改善し、時には反対される方の不安を解消する仕方でお互いに話を進めていきたい。最終的には、皆さんのご意見が反対ではなく、それなら一緒にやってみようという方向に進むように、話し合いをしていきたいと考えている。

- ・反対する方がいるなどの話は、ちらほらと出ているのか。

(回答) 前回の保護者説明会もあり、現在のところは反対というより、園がどのような形で変わっていくのか心配だという意見が出ている状況である。そのあたりは丁寧に説明させていただくことで、解消していけるものと考えている。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・第 11 回定例教育委員会 11 月 20 日 (金) 14:00～1F 多目的ホール
- ・第 12 回定例教育委員会 12 月 17 日 (木) 14:00～1F 多目的ホール

1 4 その他

教育委員からの質問および回答

- ・先ほど教育長から外国人のためのタウンミーティングが行われ、保護者の方が言語や教育に不安を持っていることが問題点として上げられたとお聞きしたので、その点について教育委員として学校の現場の状況をお尋ねしたい。例えばポケット等の言語の変換ができる機器は、各学校、こども園でどれぐらいの台数が使われているのか。

(学校教育課長の回答) 現状、外国人が所属している学校は限られている。予算的には、ふるさと納税充当事業の学校づくり応援事業で予算を確保しており、そこからポケットを買っている学校があると確認している。ただ、何台持っているのかはこちらのほうでは把握をしていない。例えば、先ほど教育長の報告にもあった校長ヒアリングの中で、北条小学校は3台のポケットをフルに活用しながら、多言語に対応しながら、授業で外国人の子どもたちの理解を深めているという事例を具体的に聞いている。

- ・教育委員からの要望：例えば北条小学校や北条東小学校は、外国籍の子どもさんが何人かいる。今伺った3台の使用が、本当に学校にとって妥当なのかと疑問に思う。言語も英語圏だけでなく、いろいろな言語があるので、さあ使いたいというときにはすぐ使えるように、せめて外国人のお子さんがあるクラスには少なくとも1台は確保してほしいし、または、確保ができているのかを把握していただきたい。それがなかなか進まない状態なら、そのような予算枠でとってくださいと現場への指導もしていただきたいと思いますと思う。このポケトークに関しては、業者によって金額が違ってもいいが、おそらく3万円前後で買えるもので、そんなに高価なものではないので、できれば学校ですぐに使えるような状態にしてあげてほしい。教育委員会としても「学校はそれで大丈夫ですか。もっとこれだけ外国人の子どもがいるクラスがあるのに、大丈夫ですか。」というように意見を伺っていただいて、できるだけ完備していただきたいという要望である。よろしくお願ひしたい。

(学校教育課長の回答) 指導として言えば、委員がおっしゃるように、昨年も同様の要望があり、予算立てはさせていただいているので、学校にその旨を確実に申し伝えたいと思う。あわせて外国人の支援として言えば、教育委員会の外国人 인권教育は、市長部局の 인권推進課に事務委任しているため、 인권推進課と連携しながら事業を行っている。特に、学校教育課で予算を持ち、授業のサポートの際はポケトークだけではなく、ねひめカレッジにもお世話になりながら、サポーターを実際に配置することや、通信簿の翻訳や高校進学の際の調査書を多言語で作成することなども行っている。困り感がないようにということで、本年度は昨年度の2倍近く予算増額をしてもらっており、そういった補填もできるようにしている。滞りないような指導、支援ができるように学校へ指導してまいりたい。ご助言には大変感謝したい。

- ・教育委員からの要望：自宅近くに南部学校給食センターが完成しつつあり、1月から新センターが開始されると聞いている。その中で、単独調理校方式から北部や南部給食センターでの調理へ移るところがあり、一番心配しているのはアレルギーである。今現在も当然情報をきちんと把握されて、アレルギーが起こらないよう卵除去食とか対応されていると思うが、ここ2カ月ぐらいの間に1回組織が変わるので、そのあたりの情報をきちんと共有して、アレルギー事故やアナフィラキシー等が起こらないような体制づくりをもう一度確認してお願いしたいと思っているところである。

(次長兼教育総務課長の回答) 委員がおっしゃるとおり、アレルギーの事故を起こすと、場合によっては命にかかわることにもなりかねない大変なことである。そうならないためには、当然、学校の養護教諭や栄養教諭、現場での調理員等との間の意思疎通が非常に大事だと思っている。事故等がないような体制づくりを必ず行って

いきたい。

- ・(教育長からの意見) そのことで私からも一言発言したい。南部学校給食センターのオープンをひとつのきっかけとして、私は以前から、地産地消、地元の野菜等々を使った給食を柱とした食育に注力したいと表明させていただいている。

その食育という中には、当然、給食のアレルギーのこともあり、先日のグローバルタウンミーティングで出たハラルの問題もある。ハラルとは、誰でもわかるような言い方をすれば、イスラム法上で豚を食べてはいけないとか、アルコール禁止といったことがある。日本の場合、宗教の意識というのが、学校の中に入って来ないが、ムスリムにとっては豚は汚れたものであり、豚肉はタブーとされている。私はハラルについて何回かセミナーを開いたこともあるが、豚肉に関して言えば、それを食べると神の教えにそむくことになってしまう。インドでは牛が聖なるものだが、ムスリムにとっては豚は汚辱であるようだ。

それが、豚カツとかであれば、豚だとすぐわかるが、スープのダシとして入っていたりすると、全くわからない。もう少し配慮してもらえないかという意見が、グローバルタウンミーティングでは出ていた。それは調理員の人数の問題もあり、即明日から改善するというわけにはなかなかいかないと思うが、「よく承りましたので、前向きに検討させていただきます」とお答えさせていただいた。こうしたアレルギーやハラルについては、今や日本中、世界中の大きな問題の1つであるので、加西市も乗りおくれることなくきちんと対応するのが、筋であると思う。特に、アレルギーは本当に命にかかわるものであるし、ハラルも彼らにとっては命にかかわるのと同じぐらいに大事な問題なのである。そういう食事のタブーも含めてきちんと勉強をして、栄養教諭とも話し合っ、食育を行っていきたい。

- ・教育委員からの要望：教育委員になってから、新しく文化財が決まるという書類をいただいた際は、書面だけではわからないので、現地を見るように心がけている。しかし、教育委員が見られないところもある。例えば鶉野飛行場の映画や教育委員会から修繕をした現地などは、なかなか見られないので、そこも見られる時間をとっていただけたらと思う。そうすることで、より一層よい会議ができると思うので、よろしくお願ひしたい。

オープンスクールについて教育委員からの報告

- ・コロナ禍で学校訪問や研修に行けなかったため、今年の学校の状況を見たいと思い、先日のオープンスクールに行かせていただいた。私の担当地区では、先週に泉小学校と宇仁小学校があり、参加させていただいた。泉小学校では、英語が始まってお

り、階段に英語の挨拶が張られるなど、とても活発に行われていた。宇仁小学校はとても小さい学校ながら、子どもたちがすごく元気で、挨拶もきちんとでき、活発であった。特に音楽に一生懸命力を入れていた。校長室では、来られていた民生委員の方が「もうすぐ、コスモス祭りがあるから、子どもたちが史跡の発表をしてくれるので、みんな呼んでおいたからな」と言われ、地域の皆さんが集まって学校を応援している様子で、宇仁小学校の子どもたちは本当に幸せだと思った。地域性がとてもよいと感じた。

- ・私はオープンスクールには行けなかったが、担当の賀茂小学校が市内トップバッターで音楽発表会を行うということで、行かせていただいた。子どもたちは5月から宿題として渡された演奏の課題をずっと練習してきて、コロナ禍であるにもかかわらず、例年よりもとてもレベルの高い発表をされていることに感動した。音楽発表会を開催させていただき、事務局の皆さんにもお礼を言いたく、感想だけ述べさせていただいた。

- ・オープンスクールについて2点だけ述べたい。先週は加西中学校と九会小学校を、今日の午前中には富合小学校を訪問した。7月に行ったオープンスクールと今回とは様子が違う印象を受けた。7月は少し落ち着かない子どもたちもいたが、今回はしっかりと落ち着いて学習できているなど感じた。それが1点目である。もう1点は、先生と子どもたちとの距離というか、心のつながりができていて、子どもが上手に受け答えをしているという感じを受けた。

また、先生はお忙しい中ではあるが、小学校の先生が中学校のオープンスクールに来られたり、逆に、中学校の先生が小学校に来られたりしていた。卒業生がどういうふうに中学校で勉強をしているのか、今後どんな子どもたちが入って来るのかということも含め、先生方同士の授業の相互参加というのはとても参考になると感じた。忙しいかもしれないが、時間を見つけてオープンスクールに参加するのはよいことだと思った。

また、九会小学校の理科の授業でクロームブックを使って子どもたちが動画を見ていた。まだ、1クラスだけの利用だったので、これが早くもっと広がったらいなという感想を持った。研修も大変だと思うが、よろしく願いたい。

- ・私からもオープンスクールの感想だけ述べさせてほしい。10月15日、19日にそれぞれ富田小学校と北条中学校のオープンスクールに参加させていただいた。クロームブックなども見たかったが、私が見た中ではなかった。オープンスクールなので入口、出口ともに開いていたが、コロナ禍の中で窓が全開にされていた。また、席も割と広めにとって対応されていたように思う。ただ、今は気候がよいので

問題はないが、これから寒くなってくるので、窓を開けるのは難しくなると思う。5分、10分だけ開けることになるのかなと思いながら、見させていただいた。2校とも子どもたちがしっかりと落ち着いて授業を受けていた。そして、学校も整理整頓がされて、ごみが1つもない状態だった。本当に気持ちよく参加させていただいたので、この場をお借りして、お礼を申し上げたいと思う。

- ・(教育長の意見) 先日の校長先生のヒアリングの際には、基本的に授業のフォローアップはほぼできたということだった。授業に関しては大変心配していたが、夏休み等も利用し、ほぼどの学校でもそのようにおっしゃっていた。授業に追いつくだけではなくて、いろいろな問題を解決しながらようやくここまで来られたのは、本当に大変だったと思う。各学校の校長先生だけでなく、先生方皆さんが本当によくやっておられるなど実感をした。教育委員の皆様がオープンスクールに参加し、さまざまな様子を実感していただいたことを、ありがたく思っている。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和2年10月22日

出席者

(出席者署名)